

# 地域を守る危機管理医療人材養成

熊本大学病院災害医療教育研究センター

教授 笠岡俊志、特任助教 内藤久貴、コーディネーター 馬渡博志

目的とするSDGsゴール



## 1. 教育・研究の概要

熊本県においては国際的な半導体製造を担う国策地域として、人材の集中や国際的な発展が見込まれる。一方で、そのような多様なステークホルダーによる社会形成において、災害やテロといった危機的状況の発生に備え、事態対処を可能とするレジリエントな社会構築は急務である。危機的状況における住民の健康被害を防ぐ取り組みとして危機管理医療人材を養成することで持続可能でレジリエントな地域構築に貢献する。

## 2. 教育・研究の目的

熊本県は、半導体企業の進出や特定利用空港・港湾整備といった指定を受け、国家安全保障上においても重要な位置を占めておりグローバルな知見を有する医療提供体制構築が必要と考える。加えて有事の際の国民保護における要配慮人材の受入が予測され、危機的状況に対応可能な医療体制を整備することで、地域の医療機能を持続可能とし、強靱なコミュニティ形成にもつながる取り組みとなる。そのような事態対処医療においてもリーダーシップを発揮する人材育成を行う。

## 3. 今年度実施した教育・研究

### ・本年度中の教育・研究の取組



#### 1.Man made disaster

本邦では、テロといった人為災害を網羅的教育するプログラムは十分でない。一方で、本邦では地下鉄サリン事件やサイバーテロをはじめとするMan made disasterが発生している。今回5回コースでこの人為災害についての知見を共有する機会を創出し、医療人材養成を行った。報告時点でのべ182名（3回開催時まで）が参加した。

#### 2.地域を守るための医療機関の自然災害対応と備え

熊本（九州）でも毎年の様に発生する豪雨災害として本年8月発生した台風第10号での対応を取り上げ、医療機関の備えや情報共有について学ぶ研修会を開催した（75名）。加えて、先手を打った自然災害対応をテーマに医療機関基本情報に関する実地研修を開催した（16名）。

#### 3.ロジスティクス業務研修：病院での災害対応や災害支援を強化する

知識のアウトプットや危機的状況発生時に対応・実践可能な人材を養成するためにロジスティクス業務研修開催を予定している。ハイブリッド開催とし、遠方からの受講者も参加可能な予定である。

#### 4.市民公開講座：多様なステークホルダーとの対話

高齢者をはじめとする要配慮者は災害時に健康被害を生じやすい。加えて何らかの基礎疾患や内服加療を行っているため、薬剤中止が健康被害結び付き可能性が高い。これらの知見は治療する医療者と治療を受ける側の双方への共通理解が必要であるため、新型コロナ対応や海外の災害支援の経験豊富な講師を迎え講座を開催する。

### ・上記の取組によって生まれた成果（SDGs達成へどのように貢献するのか）

本邦においては特に人為災害に関する集学的な学習環境は整っていない。今回、これまでの災害医療支援の経験と教育手法に加え、DMAT事務局や国際緊急援助隊といった国際支援経験を有する講師陣と連携することで、国際基準の災害支援を学ぶ教育・人材養成を行った。これまでに本事業のような学びの機会を得ている参加者は僅かであり、国際化が進む熊本県（本邦）の関係者にとっても先進的で有意義な教育として成果を上げることが出来た。

### ・今後の展望

継続した教育プログラムとしての開催や、行政と連携した訓練として展開するなど、関係団体が新たな知見を得る機会として活用していくことを検討している。